

# なぜ琉球王国の文化は、現代まで受け継がれているのか！？

11月9日(水)、社会科の上地義朗先生が授業を公開しました(2年3組)。本時は、琉球王国が薩摩に侵攻された後も、独自の文化を発展させることができたのか？多面的・多角的に考察し、調べたことを発表することがねらいです。



義朗先生の授業で大変参考になったのが、単元計画です(図2)。歴史分野において、幕藩体制の始まりから貿易統制、琉球王国の外交、アイヌの人々まで、**生徒の問いが貫かれている単元構成**は、他教科も参考にされたいです。

Kさんにインタビュー 『今日の授業でわかったことは？』  
琉球独自の文化があったから、それが外交手段となって、明(中国)や幕府との関係が維持できたと思う。

**本時で目指す生徒の姿や、本時で働かせたい見方や考え方を明確**にすることで、発表会で終わらずに、仲間との試行錯誤を通して、生徒が多面的・多角的に考察する授業がデザインできるのか、社会科で検討していただくと嬉しいです。義朗先生、今日は参観者が20名と緊張したと思いますが、ステキな授業ありがとうございました(\*^\_^\*)



図1 4つの視点を共有している場面

## 単元を通して「問い」をつなぐ社会科学習

### 教材との出会いの「問い」

**つかむ** 琉球王国の外交～江戸時代～



### 単元を貫く大きな「問い」

**見通す** なぜ琉球は、薩摩侵攻後も、独自の文化を発展させることができたのか？



### 小さな「問い」をつなぐ

#### 調べる

薩摩が、琉球に侵攻する前後の状況を、4つの視点から捉え、Google スライドにまとめていく。

【薩摩】【江戸幕府】【明】【琉球王国】

### 調べたことをまとめ、振り返る

#### まとめる

4つの視点を全体共有し(図1)、琉球が薩摩に進行された後も、琉球独自の文化を発展させることができたのか、Google フォームに答えていく。

### よりよい社会や生活に生かす「問い」

**生かす** 江戸時代のアイヌの人々(北方領土)は、幕府や世界と、どのようにつながっていたのだろうか？(次時の学習内容)

図2 本時の授業×問いサポ P. 20

## 「問い」が生まれる授業のポイント (社会)

～「問い」を引き出し、「見方・考え方」を働かせる課題解決的な授業展開の工夫～

社会科では、「社会的な見方・考え方」を働かせ、「課題を追究したり解決したりする活動」を通して、「公民としての資質・能力の基礎」の育成を目指します。地理的(位置や空間的な広がり)、歴史的(時期や時間の経過)、社会的(事象や人々の相互関係)な視点で社会的な事象を捉えさせ、「問い」を引き出し、児童生徒が主体的に学習する課題解決的な授業展開を工夫しましょう。